



平成 26 年

## 第 1 回名寄市議会定例会行政報告

名 寄 市

平成 26 年度の予算編成	1
“市民と行政との協働によるまちづくり”	3
・市民主体のまちづくりの推進	3
・コミュニティ活動の推進	4
・人権尊重と男女共同参画社会の形成	5
・交流活動の推進	5
・広域行政の推進	7
・健全な財政運営	8
・陸上自衛隊名寄駐屯地の堅持	9
“安心して健やかに暮らせるまちづくり”	9
・健康の保持増進	9
・地域医療の充実	10
・子育て支援の推進	12
“自然と環境にやさしく快適で安全なまちづくり”	12
・循環型社会の形成	12
・消防	13
・交通安全	14
・生活安全	14
・消費生活の安定	15
・住宅の整備	15
・上水道・簡易水道の整備	16
・下水道・個別排水の整備	16
・道路の整備	17
・総合交通体系	17
・雪を活かし雪に強いまちづくりの推進	18
“創造力と活力にあふれたまちづくり”	20
・農業・農村の振興	20
・林業の振興	21
・商工業の振興	22
・雇用の安定	23
・観光の振興	24
“心豊かな人と文化を育むまちづくり”	25
・小中学校教育の充実	25
・大学教育の充実	27
・食育の推進	28
・生涯学習社会の形成	29
・地域文化の継承と創造	31
・生涯スポーツの振興	32
・青少年の健全育成	33

本日、平成 26 年第 1 回定例会の開会にあたり、これまでの主な行政事項について、その概要をご報告申し上げます。

## 平成 26 年度の予算編成

平成 26 年度の予算編成について申し上げます。

国の平成 26 年度予算編成は、経済成長につながる施策を果敢に実行していくとともに、未来に向けて持続可能な制度を構築し、デフレ脱却・経済再生と財政健全化の好循環を達成していくことが必要との考え方に立ち、社会保障をはじめとする義務的経費等を含め、聖域なく予算を抜本的に見直した上で、経済成長に資する施策に重点化を図るという基本方針が、昨年 12 月 12 日に閣議決定されました。

地方財政対策については、地方が地域経済の活性化に取り組みつつ、安定的に財政運営を行うことができるよう、地方交付税などの一般財源総額について、社会保障の充実分などを含め、平成 25 年度の水準を相当程度上回る額を確保したものとなり、地方財政計画の規模は、東日本大震災を除く通常収支分で、前年度比 1.8 パーセント増の 83 兆 3,607 億円となりました。また、一般財源総額では前年度比 1.0 パーセント増の 60 兆 3,577 億円となりました。

このうち地方交付税は、前年度比 1.0 パーセント減の 16 兆 8,855

億円となりました。また、地域の元気創造事業費の設定や、市町村合併による行政区域の広域化を反映した算定項目の設定など地域の厳しい財政事情に一定の配慮がなされました。

こうした中、本市の平成 26 年度各会計予算は、骨格予算となりますが、地域経済や雇用の安定などを考慮し、継続事業を中心にできるだけ多くの事業を盛り込んだ予算を編成しました。

主な事業については、ハードでは北斗・新北斗公営住宅建設事業、消防・救急無線デジタル化事業、名寄南小学校校舎・屋内運動場等改築事業、大学図書館建設事業、(仮称)市民ホール整備事業などを、また、ソフトでは地域外の人材を受け入れて地域力の強化と人材の定着を図る地域おこし協力隊事業や、子育て支援の充実を図るため「親子おでかけバスツアー」などにより、子育て中の親と幼児を対象に、多世代交流、子育て世代間の交流を実施する地域活動事業などを盛り込みました。

一般会計の予算案は、前年度比 17.1 パーセント増の 220 億 6,719 万 8 千円となりました。

また、8 つの特別会計予算案は前年度比 2.3 パーセント減の 78 億 6,515 万 7 千円、企業会計予算案は前年度比 10.2 パーセント増の 149 億 4,785 万 5 千円、全会計の総額では前年度比 10.9 パーセント増の 448 億 8,021 万円となりました。

財源調整的に、財政調整基金で 5 億 5,021 万 6 千円の取崩しを、また、老朽化した施設設備の更新に係る事業の財源として、公共施設整備基金で 1 億 1,820 万円の取崩しを、また平成 25 年度に交付された地域の元気臨時交付金基金から普通建設事業の財源として 2 億 5,200 万円を取り崩しましたが、今後の起債償還などの義務的経費に備え、減債基金などの積み立てを行い、将来の財政健全化を視野に入れた予算を編成しました。

今後も、行財政改革に取り組みながら、健全な財政運営に努めてまいります。

## “市民と行政との協働によるまちづくり”

### 市民主体のまちづくりの推進

次に、転入者の受け入れについて申し上げます。

本市への年間転入者数は、概ね 950 世帯、1,450 人となっています。

昨年春から開催している転入者向け市民見学会に加えて、本年から、公共施設を無料でお試しいただける「転入者向け公共施設無料おためしチケット」を転入手続き時に配付し、より早く、より多く本市の魅力を知っていただけるよう、取り組んでまいります。

次に、北海道日本ハムファイターズ「北海道 179 市町村応援大使」

について申し上げます。

本事業は、北海道日本ハムファイターズが地域を応援する企画として実施するもので、稲葉<sup>いなば</sup>選手、村田<sup>むらた</sup>選手が名寄の応援大使として1年間協力いただけることとなりました。

既に、両選手の等身大パネルや成人式へのメッセージなどをいただいております。今後においては球団が企画する応援ツアーのほか、北海道日本ハムファイターズなよろ応援団をはじめとする関係団体と連携しながら、両選手や球団との交流を通じて、本市のPRと市民の盛り上げに努めてまいります。

### **コミュニティ活動の推進**

次に、地域連絡協議会について申し上げます。

昨年4月に、名寄市地域連絡協議会等活動交付金の見直しを行うとともに、代表者会議等を開催し、活動の助長を図ってきたところ です。

この間の交付金の申請状況は、運営費助成は前年比1件増の5件、活動費助成では前年比4件増の11件となっており、新たな事業として「防災共同訓練」や「おもちつき大会」「町内会交流事業」などの取組が行われています。

今後とも情報交換会の開催や地域連絡協議会はもとより複数町内

会による事業等を支援し、活動の助長を図ってまいります。

## 人権尊重と男女共同参画社会の形成

次に、男女共同参画社会の推進について申し上げます。

昨年12月8日、駅前交流プラザ「よろーな」においてTVなどでも活躍されている漫画家 くらたまゆみ 倉田真由美先生を講師に招き、男女共同参画セミナーを開催しました。

第1部の講演会には91人、第2部のグループ討論には20人が参加して、性別に関わらず、一人ひとりがストレスなく自分らしく生きるための方策を学びました。

今後とも男女共同参画社会の実現に向け、市民の皆様と一緒に考える機会を提供してまいります。

## 交流活動の推進

次に、交流活動の推進について申し上げます。

本年度の東京なよろ会スキーツアーは、6コースに217人が参加される予定であり、旧名寄市から通算すると延べ120回、5,892人に参加いただくこととなります。訪れていただいた皆様には、日本一の雪質やカーリング体験、なよろ市立天文台での星空観察、北国の味覚など、本市の魅力を堪能いただいております。今後とも、本市のPR、

情報発信に努めてまいります。

ふるさと会交流事業については、旭川風連会の総会が2月2日に、さっぽろ名寄会の総会が2月21日にそれぞれ開催され、会員の増強運動などに取り組むことが確認されました。

東京都杉並区との交流事業では、首都圏を襲った大雪の影響により、「なよろ雪質日本一フェスティバル」と「ふうれん冬まつり」への代表団の訪問が中止となりましたが、それぞれの雪像コンクールに区長賞及び区議会議長賞を提供いただきました。

国際交流では、昨年、名寄・ドーリンスク友好委員会を中心に出席した道北6市によるユジノサハリンスク道北物産展の成果と課題を市民に広く周知するため、1月23日に「ユジノサハリンスク道北物産展2013〔名寄〕報告会」を開催しました。

台湾との交流では、市内の中学生16人が交流自治体中学生親善野球大会に参加するため、昨年12月25日から6日間、台北市などを訪れ、言葉も文化も歴史も異なる国で、台湾、東京都杉並区及び福島県南相馬市の中学生と野球を通じた交流を行いました。

なお、昨年12月28日には、本市と台湾との青少年の交流が深まるよう、中国青年救国団と宣言書を取り交わしました。

また、昨年7月に実施した台湾教育旅行モニターツアーの成果として、モニターツアーに参加した台湾の高校から、1月26日、27日



は国立鹿港<sup>ろっこう</sup>高級中学が、2月19日、20日は桃園縣立平鎮<sup>とうえんけんりつへいちん</sup>高級中学が、  
2月25日、26日には国立玉井<sup>たまい</sup>高級工商職業学校などの計5校が本市  
を訪れ、高校生と交流を深めたほか、なよろ市立天文台の見学、ス  
キーやカーリング、餅つきなどを楽しんでいただきました。

次に、地域おこし協力隊について申し上げます。

農業支援員2人については、昨年10月の委嘱以降、風連日進地区  
を拠点として農業者宅や農業振興センターなどで農業研修に励むと  
ともに、地区の高齢者宅の屋根雪降ろしや、市営スケートリンクで  
のスケート指導など、地域貢献活動を行っています。

また、平成26年度の新規隊員として、2月14日まで農業支援員2  
人の募集を行ったところ、6人からの応募があり、現在、選考を行っ  
ているところです。

## 広域行政の推進

次に、広域行政の推進について申し上げます。

天塩川周辺13市町村で構成する「テッシ・オ・ペツ賑わい創出協議  
会」では、昨年に引き続き、1月31日から2月2日は本市と下川町・  
幌加内町のエリアで、2月7日から9日は和寒町・剣淵町・士別市の  
エリアで「天塩川住民再発見ツアー」を実施しました。今後、ツア

一の模様や楽しんでいる様子をパンフレットや動画サイト上で発信する予定です。

また、2月22日には、「天塩川フォーラム」が開催され、日本を代表する観光地域づくりプロデューサー坂元英俊さかもとひでとし氏の基調講演や、天塩川周辺地域で地域おこしに尽力されている方によるパネルディスカッションを通して、地域の今後の可能性などについて意見を交わしました。

なお、協議会に対する北海道の地域づくり総合交付金は2カ年の支援が終了するため、新年度以降は、財源規模を縮小しながら構成市町村で応分の負担金を拠出し、継続する方向で調整を行っているところです。

## 健全な財政運営

次に、健全な財政運営について申し上げます。

昨年12月に滞納管理システムを導入し、市税滞納繰越分の収納額が前年比13パーセント、916万円の増となりました。

今後ともシステムを有効に活用し、税負担の公平性確保に努めてまいります。

## **陸上自衛隊名寄駐屯地の堅持**

次に、自衛隊関係について申し上げます。

昨年 12 月 17 日に閣議決定された「国家安全保障戦略」及び新たな「防衛計画の大綱」「中期防衛力整備計画」において、北海道は良好な訓練環境であることが明記され、陸上自衛隊は、道内に所在する師団・旅団を機動運用する部隊として位置づけました。

これは、名寄駐屯地が有する最北の防衛・警備に追加されたものであり、第 4 高射特科群の存続を含め、所在する部隊削減への影響はないものと認識しており、この間の地域との絆及び陸上自衛隊名寄駐屯地増強促進期成会をはじめ、関係諸団体による要望活動の成果と考えているところです。

今後も引き続き、現状体制の強化・拡充について取り組んでまいります。

## **“安心して健やかに暮らせるまちづくり”**

### **健康の保持増進**

次に、大人の風しん予防接種緊急対策事業について申し上げます。

20 代から 40 代を中心に風しんが全国的に流行したことに伴い、妊婦と生まれてくる赤ちゃんの健康を守ることを目的に、昨年 7 月から緊急対策として、風しん予防接種費用の一部助成を行っています。

対象者については、ワクチンが一時的に不足することが懸念されたため、優先度を考慮し、19歳以上の市民で妊娠希望者と妊婦の配偶者とし、1月末までの助成申請者は131人で接種者は98人となっています。

現在、風しんの報告数は全国的に激減してきていますが、引き続き、将来にわたって流行を阻止するため、予防接種の一部助成を推進し、予防対策の普及啓発に努めてまいります。

### **地域医療の充実**

次に、病院事業について申し上げます。

昨年4月から12月までにおける、一般科と精神科を合わせた患者取扱い状況については、入院患者数が延べ7万7,368人で前年比3,122人、率にして3.9パーセントの減少となっています。また、外来の取扱い患者数は、16万3,763人で前年比6,539人、率にして4.2パーセントの増加となっています。

医業収益については、一般科と精神科を合わせた入院収益は37億8,090万円で前年比9,650万円、率にして2.6パーセントの増加となっています。また、一般科と精神科を合わせた外来収益は15億4,060万円で前年比1億2,100万円、率にして8.5パーセントの増加となっています。

この結果、入院収益と外来収益の合計額は、53 億 2,150 万円となり、前年比 2 億 1,750 万円、率にして 4.3 パーセントの増加となっています。

次に、平成 26 年度の診療体制について申し上げます。

全国的な医師不足の中で、当院においても、小児科で短時間勤務者の転出を含む 2 人が減員になります。このほかの診療科については、自治医科大学卒業後 3 年目の医師 1 人が、主に外科分野の研修のため 1 年間派遣される予定となっていますが、全体として大きな変更はありません。

次に、精神科病棟改築事業について申し上げます。

2 月 17 日現在、工事の進捗率は 82.2 パーセントで、内訳は建築主体工事が 84.4 パーセント、空調設備工事が 82.0 パーセント、給排水衛生設備工事が 75.0 パーセント、電気設備工事が 78.0 パーセントとなっています。

3 月に予定する竣工後は、4 月下旬に新館へ引越し、5 月に新館での診療開始を予定しています。また、6 月からは現精神科病棟の解体工事及び外構、駐車場整備工事が始まります。引き続き市民をはじめご利用の皆様にはご迷惑をお掛けしますが、ご理解とご協力をい

いただきますようお願い申し上げます。

### **子育て支援の推進**

次に、子育て支援の推進について申し上げます。

平成 25 年度新規事業の「名寄市お祝い誕生もち引換券交付事業」については、3 月末日までに満 1 歳の誕生を迎えた 252 人に贈呈し、お祝いするとともに、駅前交流プラザ「よろーな」、市役所名寄庁舎及びイオン名寄店において写真展を開催しました。

今後とも、さらなる子育て支援の充実に努めてまいります。

## **“自然と環境にやさしく快適で安全なまちづくり”**

### **循環型社会の形成**

次に、廃棄物処理対策について申し上げます。

ごみの減量化やリサイクルを推進するため、内淵一般廃棄物最終処分場において、本年度は 12 日間、延べ 71 人により、各町内会などの環境衛生推進員の協力のもと、搬入ごみの分別指導を実施し、ごみの適正処理について、市民への啓発を行ってきました。

また、広域最終処分場の建設については、平成 30 年 4 月の開設を目指して、現在は、処分場建設に係る生活環境影響調査を実施しているところです。

次に、新エネルギー・省エネルギーについて申し上げます。

家庭用節電モニターを募る「エコチャレンジ 2013」については、名寄市消費者協会に事業の一部を委託して実施しており、冬季の取組に対し 12 人の参加がありました。

また、旧風連中学校跡地におけるメガソーラー発電施設については、昨年 12 月 9 日に竣工式が執り行われ、発電が開始されており、これまで 2 団体が施設見学を行うなど環境意識の広がりにも貢献いただいています。

今後とも、民間と連携、協力しながら、新エネルギー・省エネルギービジョンを推進してまいります。

## 消防

次に、消防事業について申し上げます。

平成 25 年中の火災件数については、13 件で前年比 3 件の増となり、負傷者が 3 人となっています。また、火災種別では、建物火災 9 件、車両火災 3 件、その他火災 1 件となっています。

救急出動件数については、1,238 件で、前年比 156 件の増となり、過去最高の出動件数を記録しました。事故種別では、急病 781 件、一般負傷 160 件、交通事故 67 件、転院搬送 147 件、その他 83 件となっています。

予防行政については、昨年起きた京都福知山花火大会露店爆発事故を教訓に消防法施行令の一部改正が行われました。これにより多人数が集まる催しにおいて、対象火気器具などを使用する方への消火器の準備が義務付となり、本市においても「なよろ雪質日本一フェスティバル」や「天文字焼きを見る集い」の会場において、露店関係者や行事主催者に対し、火気器具などの取扱いや消火器の準備について指導を行いました。

## **交通安全**

次に、交通安全対策について申し上げます。

路上駐車が他の車両や緊急車両の通行の妨げ、除雪作業の支障となることから、昨年12月と1月に名寄警察署、名寄交通安全協会連合会をはじめ、関係機関による「路上駐車一掃作戦」として、市街地の駐車違反車両71台に警告書を貼り、車両の速やかな移動を促し、啓発を行いました。

## **生活安全**

次に、生活安全対策について申し上げます。

全国的に子どもや女性が被害に遭う事件が発生しており、本市においても、子どもや女性への声かけや付きまといなど、不審者による



事案が発生しています。

今後とも、市民が事件や事故に巻き込まれないよう、関係機関や団体と連携を図り、犯罪防止に向けた情報の提供や共有により、安全安心な地域づくりを進めてまいります。

### **消費生活の安定**

次に、消費生活相談について申し上げます。

消費生活センターでは、複雑化する相談内容から弁護士との連携を図り、解決に結びつける事案が発生していることから、2月に名寄東小学校コミュニティーセンターとの共催で、名寄ひまわり基金法律事務所の<sup>おしだともひろ</sup>押田朋大所長を講師に迎え「消費生活セミナー」を開催しました。

今後とも、消費者被害を防止するため、消費者教育や啓発を推進するとともに、迅速な対応や適切な相談業務に努めてまいります。

### **住宅の整備**

次に、住宅の整備について申し上げます。

北斗・新北斗団地建替事業については、昨年9月に着手した北斗団地の鉄筋コンクリート造2階建て1棟12戸の1月末進捗率は約20パーセントとなっており、平成26年度工事分の実施設計については

昨年 8 月に着手し、1 月に完了しています。

ノースタウンなよろ団地の長寿命化型改善工事については、1 棟 30 戸を昨年 7 月末に着手し、12 月に完成しています。

また、平成 26 年度に着手を予定している風舞団地の長寿命化型改善工事の実施設計については、昨年 7 月末に着手し、1 月に完了しています。

### **上水道・簡易水道の整備**

次に、水道事業について申し上げます。

老朽管更新工事については、16 線道路老朽管更新工事ほか 12 路線、5,553 メートルが昨年 12 月下旬に全路線完了しました。配水管網整備については、風連 29 線配水管網整備工事ほか 5 路線、延長 1,724 メートルが昨年 12 月下旬に全路線完了しました。

また、簡易水道事業については、智恵文八幡地区浄水場の増補改良工事が 1 月下旬に完了しました。

### **下水道・個別排水の整備**

次に、下水道事業について申し上げます。

老朽化した施設の改築工事については、施工中の名寄下水終末処理場における沈砂池ちんさち機械設備外更新工事が 3 月上旬の完成を予定し

ています。また、名寄下水終末処理場 長寿命化更新実施設計の業務委託については、2月末の完了を予定しています。さらに雨水管渠新設工事では、豊栄川 3 号幹線、延長 129 メートルが 1 月中旬に完了しました。

また、個別排水処理施設整備事業については、新たに 18 基の合併浄化槽が供用開始されています。

## 道路の整備

次に、道路整備について申し上げます。

社会資本整備総合交付金により整備を進めていた南 11 丁目東通、昭和通、西 4 条仲通、東 1 条通の 4 路線、地域の元気臨時交付金により採択された南 6 丁目仲通、風連西町 5 丁目線の 2 路線の工事を完了しました。

また、南 10 丁目西仲通は昨年 12 月に、徳田 18 線緑丘連絡線については 1 月に発注を終え、現在、工事を進めています。

## 総合交通体系

次に、コミュニティバスについて申し上げます。

昨年 12 月 20 日に第一弾の見直しを行い、実証運行を継続しています。路線については、東西を乗継なしとする「東西まわり」と「西

まわり」の2路線とし、ダイヤについては、早朝の時間帯を除き、従来の西まわり区間においては30分に1便、東まわり区間は1時間に1便のパターンダイヤとしています。

また、今回の見直しに併せて、高齢者等にはバスアテンダントによるきめ細やかな利用案内、市内バス路線・時刻表を簡単検索できるインターネット情報サイトの開設、バス路線沿線商店との連携事業など緊急雇用創出推進事業を活用した利用促進策を展開しています。

今後とも市民の皆様の意見や利用状況などを踏まえて、利便性や効率性の高い公共交通機関となるよう改善を図ってまいります。

## **雪を活かし雪に強いまちづくりの推進**

次に、市道の除排雪について申し上げます。

本年度の除排雪対策については、除雪延長 443 キロメートル、排雪延長 145 キロメートルを対象に進めています。

排雪については、2月中旬までに生活道路の作業を終了しており、幹線道路では、降雪状況に応じた対応を考慮しながら、年度末まで継続して実施してまいります。

また、さらなる冬の道路環境向上のため、本年度から除雪幅員の設定、積上除雪、重要幹線排雪、雪堆積場の確保を進めているとこ

ろです。

今後とも、市民の皆様の声を伺いながら、結果や課題の分析を行い、冬の道路環境の向上に努めてまいります。

次に、名寄市ホワイトマスターについて申し上げます。

2月22日、名寄市民文化センターにおいて、名寄東小コミュニティセンター運営委員会と江畠<sup>えばた えみ</sup>絵美さんに名寄市ホワイトマスターの称号を授与いたしました。

名寄東小コミュニティセンター運営委員会は、スノーフェスティバルを継続して実施し、地域の連携、絆を深め、コミュニティ活動を推進されました。

また、江畠<sup>えばた えみ</sup>絵美さんは、ピヤシリスキー場で技術向上に励み、全日本スキー技術選手権大会に連続出場しているほか、道内女性では3人のみの認定となるナショナルデモンストレーターを取得するなど、今後のスキー人口拡大や競技発展に対し、大いに期待される場所です。

受賞された皆様には、今後とも本市の冬の暮らしにおいて、他の模範となる活動にご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

## “創造力と活力にあふれたまちづくり”

### 農業・農村の振興

次に、農業農村行政について申し上げます。

昨年12月7日に市内18団体の協力のもと、「2013 地産地消フェア in なよろ」を開催しました。地産地消の推進と、食育を通じた食文化の向上を目的とした取組に、多くの市民で賑わいました。

また、2月18日には、北海道農政事務所旭川地域センターの協力のもと「新たな農業・農村政策説明会」を開催し、生産者に新制度の情報提供を行いました。また、併せて同日に、生産力の向上と魅力ある農村を築くことを目的に「名寄地域農業セミナー」を開催し、北海道大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科特任教授の林美香子はやしみかこさんから「食と農」に関わる講演をいただきました。

2月21日には、「もっともち米プロジェクト」の第1回市民講座を開催し、もち米の新たな料理方法や商品開発などについて、市民に情報発信を行いました。

次に、平成25年産米の出荷状況について申し上げます。

出荷総数は、もち米28万9,413俵、うるち米2万3,316俵、合計31万2,729俵となり、合併以降で最も多い出荷量となりました。

次に、米政策について申し上げます。

昨年 12 月に平成 26 年産米の生産数量目標が配分され、もち米が前年比 3.27 パーセント減の 1 万 1,389 トン、うるち米は 3.52 パーセント減の 1,458 トン、合計で 3.30 パーセント減の 1 万 2,847 トンと示されており、現在生産者への配分に向けて事務作業を進めているところです。

次に、人・農地プランについて申し上げます。

2 月に市内 7 か所で、「人・農地プラン地域別懇談会」を開催し、今後の担い手への農地集積などについて、地域での意見交換を行いました。今後、いただいた意見をもとに、よりよいプラン作りに努めてまいります。

## 林業の振興

次に、林業の振興について申し上げます。

上川北部森林組合のチップ機更新事業については、1 月 31 日に起工式が執り行われ、4 月からの操業に向け、工事が進められています。今回の更新計画では、製造能力が 3 万 488 立方メートルから 4 万 9 千立方メートルに増加することとなり、チップが暗渠あんきよそすい疏水材や木質バイオマスなどの新たな活用が見込まれ有望であることから、今後

伐齡期<sup>ばつれいき</sup>を迎え増加するトドマツ、カラマツ材の地元受入につながり、本市の林業活性化に資するものと期待しています。

木質バイオマス利活用調査については、「新エネルギー・省エネルギービジョン」「名寄市森林整備計画」に基づき、木質バイオマスの賦存量<sup>ふぞんりょう</sup>や利活用の可能性について調査を行っています。調査は3月中旬完成の予定となっており、これをもとに木質バイオマスの利活用について検討してまいります。

## 商工業の振興

次に、商工業について申し上げます。

北海道が実施している地域別経済動向調査によると、昨年10月から12月の上川北部地域の景況感は「横ばい」となっています。

生産動向については、前期の「やや上昇」から「上昇」となりましたが、消費動向については、車や住宅などが消費税増税前の需要により上昇傾向にあることから、消費動向は引き続き「やや上昇」となっています。

融資関係では、1月末現在、経営資金、設備資金ともに件数は増加傾向で推移しています。経営資金は87件で、融資額は4億9,678万6千円となっており、前年同期比で2件の増、金額では1.1パーセントの減少となっています。また、設備資金は15件で、融資額は1億



141万1千円となっており、前年同期比で3件の増、金額では55パーセントの増加となっています。

中小企業振興条例による各種中小企業者助成制度については、名寄商工会議所及び風連商工会から中小企業者の意見をまとめた要望を受けており、経済情勢の変化とともに改善すべき内容を見極め、関係機関と相談しながら、中小企業者に使い勝手の良い制度を具体的に検討してまいります。

次に、公設地方卸売市場について申し上げます。

指定卸売業者の経営破綻に伴う業務停止以降、市場の早期再開に向けて関係機関や民間業者などと最大限の協議を重ねてきました。

この間、市内流通への影響を最小限に止め、安全安心な食を確保するため、市内買受人に冷蔵施設を利用いただいております。今後においても、青果物について、地場の農産物受入も含めて市場流通機能を安定的に確保するため、必要な準備、調整に努めてまいります。

## **雇用の安定**

次に、労働関係について申し上げます。

ハローワーク名寄管内における昨年12月末の月間有効求人倍率は0.94倍で、前年同月比0.3ポイントの上昇となり、27カ月連続して

前年同月を上回っています。

新規高等学校卒業予定者の求職、求人、就職の状況については、就職希望者は 151 人で、前年比 13 人、7.9 ポイントの減、うち管内就職希望者は 92 人で、前年 9 人、8.3 ポイントの減、管内求人数は 165 人で、前年同月比 21 人、14.6 ポイントの増となっています。

就職内定者数は 129 人で、前年比 2 人、1.6 ポイントの増、就職内定率も前年比 8.0 ポイント増の 85.4 パーセントとなっています。

今後とも、関係機関や団体と連携して求人要請、求人開拓などに取り組んでまいります。

## 観光の振興

次に、観光振興について申し上げます。

ピヤシリスキー場については、雪不足のため予定より 4 日遅れて昨年 12 月 18 日に今シーズンの営業を開始しました。今シーズンは指定管理者の名寄振興公社において、レディースデー、シニアデーなどの各種割引や S A J ナショナルデモンストレーターによるレベルアップレッスンなど、新たな企画により集客に努めています。

また、冬の最大イベントである「なよろ雪質日本一フェスティバル」が 2 月 6 日から 9 日まで、「ふうれん冬まつり」が 2 月 8 日から 9 日までそれぞれ開催され、市民など多くの来場者で賑わいました。

「なよろ雪質日本一フェスティバル」では、国際雪像彫刻大会ジャパンカップに4カ国8チームが出場し、雪柱の彫刻で芸術性を競い合ったほか、韓国の学生を含め7チームが出場した全日本学生対抗スノーオブジェ競技会や、おらの雪像みてくれコンクールも行われ、南広場を素晴らしい雪像が埋め尽くしました。ふうれん冬まつりでは、全日本長靴飛ばし選手権などが行われ、子どもから大人まで楽しい冬のひと時を過ごしました。

なお、なよろ雪質日本一フェスティバルと同時開催で、冬の風物詩「北の天文字焼き」が3年ぶりに復活し、「天」の文字が厳寒の夜空を美しく彩りました。

## “心豊かな人と文化を育むまちづくり”

### 小中学校教育の充実

次に、学校教育について申し上げます。

確かな学力を育てる教育の推進については、教師の指導力や学校の組織力の向上を図るため、文部科学省指定の「学校のマネジメント力を強化するための実践研究事業」の一環として教育講演会を2回開催しました。1月21日には、高知県教育委員会スーパーバイザーを招き「学力向上の処方箋」と題して講話をいただきました。約130人の参加者は、子どもたちの主体的な学びを促す指導方法や、学

校行事などのスリム化などについて研修を深めました。1月28日には、名寄市教育研究集会に国立教育政策研究所の総括研究官を招き「実践的な指導力の向上及び校内の組織力の向上」と題して講話をいただきました。約220人の参加者は、教師の指導力などを高める授業研究のあり方や、教師間の連携を重視した学校の組織づくりなどを学びました。

また、1月22日に名寄市教育改善プロジェクト委員会から、教育長へ本年度の取組について報告がありました。本年度は、学力の向上を図るため、学習指導の工夫改善に関する研究グループでは、チャレンジテストの効果的な活用など、また校内研修の充実に関する研究グループでは、各学校の校内研究の概要の集約など、さらに教育資源などの活用に関する研究グループでは、人材活用の実践例などが取り組まれました。

次に、学校の再編・施設の整備について申し上げます。

東風連小学校については、少子化による児童数の減少のため、平成28年3月末をもって閉校することで地域の合意が図られたところです。閉校後の児童は、風連中央小学校へ通学することから、交通手段など、必要な対策を学校や地域と協議してまいります。

名寄南小学校の校舎などの改築については、2月末に実施設計が終

了することから、建築確認申請など、建設に必要な各種申請事務を進めてまいります。

## 大学教育の充実

次に、名寄市立大学について申し上げます。

平成 26 年度の学生募集の状況については、昨年 11 月 21 日に推薦入試を実施し、保健福祉学部栄養学科では 15 人、看護学科では 21 人、社会福祉学科では 20 人の計 56 人、短期大学部児童学科では 25 人の合格者を決定しました。

2 月 1 日に実施した短期大学部児童学科の一般入試は、25 人の募集に対して 54 人の受験があり、28 人の合格者を決定しました。また、大学入試センター試験利用入試では、5 人の募集に対して 26 人の志願状況となっています。

保健福祉学部の一般入試前期日程では、71 人の募集に対して志願者数は昨年度から 2 人少ない 334 人で倍率 4.7 倍となりました。学科別では、栄養学科 21 人の募集に対して志願者数は 79 人で倍率 3.8 倍、看護学科 25 人の募集に対して志願者数は 155 人で倍率 6.2 倍、社会福祉学科 25 人の募集に対して志願者数は 100 人で倍率 4.0 倍となりました。

また、後期日程では、14 人の募集に対し志願者数は昨年度から 44

人少ない 236 人で倍率 16.9 倍となりました。

3 月に卒業見込みの学生の就職内定状況は、2 月 14 日現在、栄養学科で 71.8 パーセント、看護学科で 97.9 パーセント、社会福祉学科で 84.2 パーセントの内定率となっており、保健福祉学部全体では 84.8 パーセントの内定率となっています。短期大学部児童学科では、83.3 パーセントの内定率となっています。

平成 26 年度の精神保健福祉士養成開始に伴う演習室の改修、備品、図書などの整備については完了し、教育と学術研究の中心になる大学図書館の整備については、基本構想・基本計画に基づき基本設計をまとめたところです。また、老朽化による損傷を改善する本館の屋根改修工事を終えたところです。

## **食育の推進**

次に、食育の推進について申し上げます。

食育の意識高揚を図るため、本年度も中学校 3 年生を対象に、カラー写真を掲載した「かんたんお弁当レシピ」を配布し、高校進学後に弁当持参となつてからの栄養バランスについて啓発を行いました。

また、学校給食費については、平成 9 年の改定以降、据え置いてきましたが、4 月から消費税増税分として小学生 7 円、中学生 8 円の

値上げを実施し、物価上昇などに伴う値上げについては、今後の食  
材価格の変動を勘案しながら学校給食会理事会で検討し、平成 27 年  
4 月から値上げを予定しています。

### **生涯学習社会の形成**

次に、生涯学習の推進について申し上げます。

名寄ピヤシリ大学は、2 月 25 日に卒業式・修了式を行い、11 人の  
卒業生と 9 人の大学院修了生を送り出しました。また、風連瑞生大  
学は、3 月 3 日に卒業式・修了式を行い、5 人の卒業生と 9 人の大学  
院修了生を送り出します。卒業生の皆様には、今後とも生涯学習活  
動を継続されることを期待するところです。

「地域の良さを発見し、共通認識を持つ」をテーマとした  
市民講座「なよろ入門」は、2 月 6 日に本年度 12 回目の講座を開催  
し、学習活動を終了しました。本年度は、市内各校の教員初任者も  
研修として参加し、見聞を広めていただくことができました。

次に、市立図書館について申し上げます。

昨年 12 月 15 日に、名寄市小中学校読書感想文コンクールの表彰  
式を行いました。本年も市内全ての小中学校から作品総数 130 点の  
応募があり、名寄教育研究所の国語班により選出された、学年毎の

最優秀賞 1 作品、優秀賞 2 作品を受賞した児童生徒に表彰状、副賞を授与しました。

また、昨年 12 月 7 日には大人を対象として、愛読の文庫本の表紙をハードカバーに装丁<sup>そうてい</sup>する製本講習会を行い、7 人の参加がありました。12 月 25 日には「冬のおはなし会」を風連児童館で行い、40 人を超える参加者で賑わいました。1 月 10 日には本館で「冬の工作会」を行い、参加した小学 3・4 年生 13 人がペットボトルを素材とした万華鏡を作成しました。

次に、なよろ市立天文台について申し上げます。

2 月 16 日に、なよろ市立天文台と石垣島国立天文台との間で交流協定の締結を行いました。

国立天文台が市立の天文台と協定を取り交わすのは、初めてのことであり、直線距離で約 3,200 km、緯度で 20 度以上離れた天文台同士が互いに協力することは観測や研究面で有意義なことであり、今後、交流と連携を進めてまいります。

なよろ市立天文台は、本年度末で開設 4 年を経過することから利用の実態を調査するため、4 歳から 75 歳までの 895 人を対象にアンケート調査を実施しました。回答率は約 31 パーセントでしたが、50 歳以上の方の回答率が 48.5 パーセントと高かったことや天文台を知



っていると答えた人が約 97 パーセントで、うち利用したことがあると答えた人が 54 パーセント、満足度においては 75 パーセントとなっています。今後は、いただいた貴重な意見や要望をもとに、さらなる改善に努めてまいります。

## 地域文化の継承と創造

次に、地域文化の継承と創造について申し上げます。

昨年 12 月 23 日に市民会館において、第 2 回目となる「ナヨロ寄席」をなよろ舞台芸術劇場実行委員会との共催で開催しました。出演された柳家さん<sup>やなぎや</sup> 喬<sup>きょう</sup> 師匠、林家正 蔵<sup>はやしやししょうぞう</sup> 師匠の巧みな話芸に、多くの市民が楽しいひと時を過ごしました。

次に、北国博物館について申し上げます。

昨年 11 月 29 日からの巡回展「北海道開拓記念館から北海道博物館へ」や関連講座の「アイヌ語と口承<sup>こうしょう</sup>文芸の世界」「アイヌ民族の狩りとわな」を北海道開拓記念館、道立アイヌ民族文化研究センター及び北国博物館の連携事業として開催しました。また、昨年 12 月 21 日から 1 月 26 日まで、特別展「九度山と道北の山々」を開催しました。ピヤシリスキー場として市民に親しまれている九度山が、平成 21 年にアイヌ文化の景勝地<sup>めいしょう</sup> 名勝「ピリカノカ」として国の文

化財に指定されている事や、その周辺の山々の成り立ちなどについて紹介し、市民など多くの方々が訪れました。

子どもたちを対象にした冬休み企画、理科実験教室「実験で納得地震と地震災害」では、建物で異なる揺れ方や液状化現象などについて、模型を使った実験で理解を深めました。また、「森のたんけん隊 2014 冬」では、真冬の森での探険や遊びを通して森の仕組みと動物たちの様子などを学び、生きた体験学習の機会となりました。

### 生涯スポーツの振興

次に、スポーツの振興について申し上げます。

冬期のスキー競技会は、昨年 12 月 14 日の第 44 回名寄ピヤシリジヤンプ大会以降、各種 6 大会が開催され、延べ千人以上の選手が参加し、白熱した戦いが繰り広げられました。各会場では市民など多くの方々が観戦に訪れました。

スポーツ交流は、昨年度に引き続き南相馬市スポーツ復興記念「第 26 回野馬追のまおいの里健康マラソン大会」と「第 2 回みらい夢こども交流事業」に昨年 11 月 30 日から 12 月 1 日の 2 日間、名寄市代表団として小学生参加者 8 人を含む 12 人が参加し、交流を深めました。

また、本市でのジュニアオリンピックの開催について、この間、全日本スキー連盟に要望を行ってきたところですが、昨年 12 月に開

かれた全日本スキー連盟の理事会で、平成 28 年度からのノルディック種目開催の候補地として本市が内定しました。

今後、JOC への働きかけをはじめ、開催に向けて関係団体と連携し、準備を進めてまいります。

### 青少年の健全育成

次に、青少年の健全育成について申し上げます。

1 月 8 日に第 41 回新春こども書き初め広場を開催し、42 人が新年に寄せる思いを込めて力作を書き上げました。作品は市民文化センターで展示し、多くの市民に鑑賞していただきました。

1 月 12 日に平成 26 年名寄市成人式が実行委員会の主催により開催され、187 人の新成人を迎えて人生の大きな節目を祝いました。成人を迎えた皆様には社会を支える一員として、誇りと使命感、さらには思いやりの気持ちを持って社会を築く原動力となることを期待するところです。

東京都杉並区との小学生名寄自然体験交流事業については、昨年 12 月 26 日から 28 日まで、東京都杉並区の小学生 25 人が本市を訪れ、冬の自然探検、天体観測、カーリングなどを体験しました。

また、本市の小学生 25 人が対面交流会、自然体験などを通して子ども同士による友情の絆を深めました。

次に、放課後児童クラブ・児童会館について申し上げます。

南児童クラブ及び風連児童クラブ・児童会館では、小学校の 1 日入学に合わせ、新 1 年生の保護者を対象に児童クラブ、児童会館説明会を開催し、57 人が参加しました。

次に、青少年センターについて申し上げます。

青少年センターでは、冬休み期間中は一般巡視のほか、名寄市児童生徒補導協議会との連携で特別巡視を行いました。今後も、関係機関と連携しながら青少年の問題行動の未然防止や指導に努めてまいります。

次に、教育相談センターについて申し上げます。

適応指導教室では、1 学期から毎日通室している 3 人の児童生徒に対し、3 学期から給食の提供を開始しました。給食により通室者同士の交流が深まっています。

次に、放課後子ども教室について申し上げます。

放課後子ども教室は、2 月 4 日に名寄中学生の部、19 日に名寄小学生の部、20 日に風連小学生の部の閉講式を行い、本年度の活動を終了しました。参加した子どもたちは、自学自習やテーマ学習など

を通して、自ら学び自ら考える力を育みました。今後は、子ども、保護者、指導者のアンケート結果を踏まえ、次年度の計画について検討を進めてまいります。

以上、主な行政事項について、その概要を申し上げ報告といたします。